

脊髄髄膜瘤の診療ガイドライン策定

楚中正博 関西医科大学 脳神経外科 診療教授

研究要旨 脊髄髄膜瘤の診療ガイドライン策定



A. 研究目的

日本における脊髄髄膜瘤の診療については、従来施設間での治療方針が大きく異なることはなかった。しかし近年水頭症についてはVPシャントに代わり内視鏡下第3脳室開窓術を導入する施設が増えてきているなど、治療方針にばらつきがみられるようになってきている。そのためエビデンスを収集し、それぞれの治療法についての利点と欠点を十分に反映したガイドラインを定める必要があると考えられる。

B. 研究方法

まずはガイドライン作成組織の編成を行う。メンバーは小児神経外科学会の学会員、および関連学会構成員、患者会の組織の中から選定する。引き続き疾患トピックの基本的特徴、並びにスコープを作成し、診療ガイドラインがカバーする内容を作成する。その中で重要臨床課題（クリニカルクエスション）を設定する。その重要臨床課題についてシステムチェックレビューを行い、エビデンスの評価、統合を行う。この研究の読み込みと評価が中心となると予想される。その結果を受けて推奨を作成し、診療ガイドライン草案作成した上で、外部評価、およびパブリックコメント募集をへて公開する予定である。

（倫理面への配慮）

既発表済みの研究結果を解析するため、特に配慮すべき項目はない。

C. 研究結果

作成目的の明確化、作成主体を決定した。またガイドライン作成のための組織編成を行った。スコープの作成を行っているところであるが、特にガイドライン作成に重要な項目を再検討するため実態についての調査を行った。

D. 考察

脊髄髄膜瘤ガイドラインのスコープ作成には、実態に即したもので必要性が高い項目をあげる必要があると考えられた。

E. 結論

今後もガイドラインの作成に向けてスコープの作成を行い、システムチェックレビュー、推奨作成へと結び付けていく。

G. 研究発表

1. 論文発表
別紙のとおり
2. 学会発表
別紙のとおり

H. 知的財産権の出願・登録状況
なし